



1990.7.14
PH12.36
能4面



農民運動散歩記(三)

品角一郎
(遺稿)

この「農民運動散歩記」は、故品角一郎氏(一九一一~一九八一年)が、その最晩年に死に至るまで書きつづけられていたものである。

すぐれた画家であり、民主的な詩人でもあった品角氏は、一九四六年から約十年間農民運動に携わっていたことがある。日本農民組合京都府連合会の泉隆書記長のもとで、書記として京都府連の再建と発展のために活動されたのである。この記録はその当時の思い出を書きつづられたものである。

品角氏がこの「散歩記」を書かれるようになつたのは、一九七八年の夏に、当時私どもがやつていた京都府の農地改革史に関する研究会で、品角氏に敗戦直後の農民運動についての思い出を語つて貰つたことがきっかけ

になっている(この研究会の成果は、京都府農地改革史編纂委員会編『京都府農地改革史』一九八〇年刊、にまとめられている)。本文にも書かれているような事情から、日農京都府連に関する資料が焼失してしまっていいために、関係者から当時の農民運動の状況についても聞き取りを行うことになったのである。

この中では、品角氏が農民運動にかかわるようになった事情や、丹後を中心とした府下全域に及ぶ農民運動の状況が、数多くのエピソードを交えながらビビッドに描かれている。

体験的農民運動史として、農地改革期(一九四五~五〇年)の農民運動を知る上で、貴重な資料となりうるであろう。

(立命館大学教授 大蔵輝雄)
(九二・九・二〇稿一再録)

福知山の反税闘争

私は一九四八年(昭二三)所得税申告が終る直前の頃、党と日農京都府連の決定で郡部にはいつた。それは税の問題に対する農民および地方住民の動きを、調査するためであった。私はまず福知山を目的地に選んだ。なぜなら、そ

こは国鉄という基幹産業があり、全国的な規模で組織されている国鉄労働組合があり、府下でもっとも重要な商業都市であるとともに

に、広い耕作田畠を持つ農村地域もあるからであった。私は福知山を訪ねる前に、宮津にある丹後地区委員会を訪ね、そこの税状況

二、三日経つと党的ビラの成果はあった。続々と市民が地区委員会へ税の相談に訪ねてきた。はじ

めは細見氏と私が相談相手になつていて、一週間も経つとそんな

ことでは間にあらず、京都から応援のために、二名の人が来てくれて本当に助かった。一人は京大農

学部の栗田君、もう一人は同じく農学部の上牧君だった。二人とも京大細胞の同志で、農民部の仕事を手伝つてもらつたことのあるすぐれた同志であった。特に上牧君の場合は、私が河田さんの選挙事務長をやつた時、彼は谷善さんの選挙事務長をやつていた。ところ

で、ともかく一人の応援を受け、福知山の税闘争の体制は飛躍的に強化した。そのうえ、国鉄の有能な同志三、四名、それに居住の同志も毎日集まってくれた。こ

をもっているが、結局は税務署のいいなりにしたがつて、五〇%は書類を提出している状況であるところである。そこで細見氏といろいろ一步つつこんで相談した結果、「生活を守るために自主申告を認めよ」と呼びかけたビラを、夜のうちに全市的にばらまくことを決めた。これには、居住、労組、農村細胞が協力した。

二、三日経つと党的ビラの成果はあった。続々と市民が地区委員会へ税の相談に訪ねてきた。はじめは細見氏と私が相談相手になつていて、一週間も経つとそんなことでは間にあらず、京都から応援のために、二名の人が来てくれて本当に助かった。一人は京大農学部の栗田君、もう一人は同じく農学部の上牧君だった。二人とも京大細胞の同志で、農民部の仕事を手伝つてもらつたことのあるすぐれた同志であった。特に上牧君の場合は、私が河田さんの選挙事務長をやつた時、彼は谷善さんの選挙事務長をやつていた。ところ

で、ともかく一人の応援を受け、福知山の税闘争の体制は飛躍的に強化した。そのうえ、国鉄の有能な同志三、四名、それに居住の同志も毎日集まってくれた。こ

うした時に上豊富細胞の同志が、私たちオルグの食糧まで持つて参加してくれたのである。この食糧は本当にうれしかった。私たちの食糧は細見幸基氏の大きな犠牲でまかなわれていた。そんな事情のなかで福知山の税闘争は展開されていたのである。上豊富の同志が食糧を運んで呉れたあと、中六人部の細胞からも米がもちこまれるようになり実にうれしかった。

ところで、税闘争は日を追つて大きく拡大し天田郡の各町村で話題になっていき、党事務所に来る市民と農民の数は増していった。相談に来る市民のなかには、申告書類を作成しても不安でならない人があり、そうした市民を細見幸基氏が、税務署まで出掛けた交渉したものである。こんなことは実際に何十回あつたかもしれないのだ。

税闘争は長期に亘った。そのため地区委員会に寝起きしている者の生活を、確保することが大切なことになってきた。闘争の最初は短期間で闘争は終ると思っていたが、次第に活動せねばならぬことが次々と起きてきた。そのために常任活動家の生活を守ることは、闘いの重要な条件になつた。だか

ら、日、活動家、それに居住、農村、労組の同志の合同会議を持ち、「この問題をいかにするか」を討議した。その結果、どれだけ相談に来る人々に協力してもらえるかどうか解らないが、大胆に人々に次のことを訴えることにした。

それは、物あるものは物を、金あるものは金を、力あるものは力を。これを事務所の入口に、大きく書出したのである。ところが、驚いたことに、相談に来る人々は、これに応えて呉れたのである。

事務所は、細見医院の二階を解放してもらっていた。大衆と交渉する部屋（六畳）、活動家が寝起きする部屋（六畳）、その他の書類を置いたり印刷したりする部屋、以上三部屋を使っていた。会議は毎晩もつたが、常に十五、六名余りのものが集まつた。こんな状態であったから細見幸基氏の一家には大変な迷惑をかけるなかで税闘争はやられていたのである。また、党はその頃、民主民族戦線の統一を提唱していた時であった。そんなことで事務所の二階から下まである「民主民族統一戦線」「外資導入絶対反対」「農民・市民を殺す重税反対」の垂幕を掲げ

ていた。だから細見は開店休業のような有様であった。いま思ひ出すと実に大胆で、乱暴で勇敢な行動であったと冷汗をかく次第である。

ところが、税闘争は、福知山市内から天田郡の各農村に拡大していった。だから、毎日村から二、三名の代表が事務所を訪ねて「今晚わしの村へきて呉れ」と申込まれた。床をみるとそこには「マリア像」の掛軸がかかっていた。私はビックリしてそれを見ていると、主人は「共産党は無神論で宗教を手わけして、二、三名でよく出掛けたものである。そうして、その翌日は、何十人かの農民を連れて税務署に抗議に行つたのである。

綾部の農民の税闘争

次に書くのはそのうちの一つである。それは綾部町の一角にある村であったが、昼間そここの農民が村を代表して二人連で党的事務所に来て、「税金が、重くて村の者が皆困っている。区長が是非党的人を連れてきて呉れといつてゐる。だから今晚来てくれ。こんな苦し

い立場を救つて呉れる人はわれわれには神様のようなものだ」と区長は言つてゐる」と相談にきた。私は話を聞き、五、六人でその村へ夕方から出掛けた。区長の家は

すぐわかつた。家は実に堂々たる風格の構えである。入口にはドラ・の鐘が下がつていて印象に残っている。家の主人は静かな風貌であったが、なかなか威厳のある人物であった。私はその主人にすめられるままに床の間に座つた。床をみるとそこには「マリア像」の掛軸がかかっていた。私はビックリしてそれを見ていると、主人は「共産党は無神論で宗教を阿片だと否定しておられますから、それを下しましようか」と話しましたが、私は「何も下すことはありません。党は信教の自由を認めています」と答えると、主人は不審な顔をしていましたが、「今晚は本当に無理をいって、こんな処まできてもらつて本当にありがたく思っています、ところで皆のものを集めますから」といって家の門口にあつた銅鑼をたたいた。それからしばらくたつと多くの人々が集まつて来たのには、私は吃驚させられたのである。

話は深夜までかかつた。二、三十名の人々は、あまり話さなかつたが、区長の話をうなづきながら聞いていた。区長は「それでは連判状をつくるから、賛成の者はお前たちの名前を書いてくれ」とい

つて、半紙と硯箱をみんなの前に差し出しだが、一人の脱落者もなく全員それに署名したのである。それはあす福知山税務署へ抗議に行くことを誓約したものである。翌朝、三十名近い農民と共に税務署へ交渉に行つたが、交渉の結果、二、三割税は軽くなつたので、農民は大変喜んでくれた。田中源太郎、杉山某、その後この村に党組織ができた。

私達は早速このことをビラにして全町内にまいたので噂はたちまち町内や各農村に拡がつていった。

ビラと壁新聞合戦

ところでビラのことで思いだしたが、ビラは毎日のように作つてまいていたが、そのままビラの紙には本当に困っていた。金はないし、紙はなしでは闘争はできなかつた。こんなとき細見幸基氏が、毎日のように事務所に顔を見せて、町の噂と情報をしらせて呉れる親切な印刷屋のおぢさん。事情を話して頼んでもらつたところ、紙の裁断の屑を大量にカンパンしてくれたので実に大助かりであつた。私達は、鬨いの勝利は大量のビラと壁新聞にあると、スローガ

ンにかかげていた。だからビラは本当に大量に配布した。また、壁新聞も毎日のよう町内の六、七ヶ所に貼り出していたので、実際に紙には困つていたのである。だからこの印刷屋のおぢさんのカンパンは大助かりであった。なお、壁新聞のこと思い出したが、われわれの壁新聞だけでなく、右翼の大日本菊水会福知山支部の反共壁新聞も連日のように党的壁新聞の横に堂々と貼られていた。だからそれはさながら壁新聞合戦であった。福知山駅前の壁新聞の前は何時も人垣でいっぱいであった。それを、駅前の駐在所の巡査がときどき読みに来ていたのである。

労農市民大会

この壁新聞のことについては、またあとで述べることにして、われわれは税闘争の高揚をみて、公社合同で演説会を開催することを決定し、その準備活動にはいつた。まず党は、社会党支部を要請したが断わられたので、やむなく党独自でやることを決め、国鉄、税務署その他の労組に協力を要請した。これに対応できる限りの協

着々と準備をすすめた。

演説会の会場は福知山公会堂である。これには当然府委員長の河田賢治氏、弁護士小林為太郎氏を弁士に迎え、それに国鉄労組、市民、農民から代表弁士を決定し、その他に、細見幸基君と私が出ることになつていて。

この労農市民人民大会の演説会に党は全力をつくした。会場の福知山公会堂を満員にする予定で、ポスターをはり、ビラを連日連夜徹底的に市内にまいたりしたのである。

いよいよ当日がきた。ところ

が、会場準備にいた同志の一人が帰ってきて、既に多くの市民と農民が続々と集まってい

るが、会場の入口に十名程のアメリカ兵がカービン銃を肩にかけ

て、余り会場に大衆が入つてこな

いと報告した。この報告を聞いて私は予期していた通り、舞鶴に駐屯しているアメリカ軍がついに弾圧にきたと思い、河田委員長と共に会場へ出かけた。会場附近ま

でいくと赤旗を持った労働者と、

むしろ旗をもつた農民があちこちに集つていた。私は、直感的に、

会場の前にある食堂 河田委員長を連れて入つた。食堂の窓から会場の入口はよく見え、アメリカ兵の姿もよく見られた。しばらく様子をうかがつていると、報告の通り大衆は一度は会場の入口の方へ歩いて行くが、アメリカ兵をみると、あともどりしてるのである。私はそれをみてこのままで

長を連れて入つた。食堂の窓から

会場の入口はよく見え、アメリカ兵の姿もよく見られた。しばらく

様子をうかがつていると、報告の通り大衆は一度は会場の入口の方へ歩いて行くが、アメリカ兵をみ

ると、あともどりしてるのである。私はそれをみてこのままで

は、演説会は潰されて終つと思つた。そこで河田委員長にしばらく

ここにいてくれと言残し外に出

て、会場附近に集つて人々の処へ行き、「みなさんと共にスク

ラムを組んで会場にはいるから」と話した。大衆はそれにはうなづいてくれた。「食堂の前で私が手を振つたら会場に向かって歩いてく

れ」と伝えて、河田委員長のところに戻り、事情を話すと「そうかそれでは会場へ行こう」私達二人

は食堂を出て、私がみんなに手を振ると、大衆は動きはじめた。私達二人は腕を組んでアメリカ兵の前を話しながら通過した。うしろ

を見ると、赤旗と、むしろ旗を立てて、大衆があとからついて続々と入場してくるのがみられた。し

ばらくすると、会場は満員に近い状況になり、心配していた結果にならず、この演説は大きな成果をあげることができたのである。と

燎原

ところで、この模様をその晩直ちに、壁新聞にして報道したのである。この壁新聞に対する市民の反応は大きなものがあり、党的税闘争の実力に対して市民の信頼の声は大きくなっていた。

舞鶴・宮津の影響

或る日、舞鶴地区の宮田同志が事務所に訪ねてきて呉れたが、「福知山の税闘争は活発だと、舞鶴まで噂がきこえているが、今日はじめて来て本当に活発なのにびっくりした。特に驚いたのは、党的自転車が赤旗をたててなん台も走っているのをみてびっくりした。福知山のたたかいにおられて、舞鶴でも市民が党事務所に相談に近頃きている」と語っていた。

或る日、私は宮津の丹後地区委員会へ出掛け、宮津の様子を沢村秀夫氏と井上公作氏から事情を聞いたところ、舞鶴と同様の状況であった。それは地区の限られた同志が世話役活動をやっておる範囲で、党組織の闘いとして取組まれていないうらみがあった。あの頃の大衆の胸には戦争に負けた無念さと、自分たちをバカにしていた政府に対する怒どおりが流れてい

た。の一方では日々の生活は苦しく、どこに対しても不満を爆発させたらよいか、戸惑っていた頃であった。だから断乎、不正に対する闘いをだれかがやれば共感し、共に闘う力量をもっていたような時代であった。このような大衆の心理もあって、私達が最初思ってもいなかつた状況が、福知山では起きたのだと考えたことがある。ところで、舞鶴、宮津でも福知山の闘争の火が大きくなるにしたがって、其の後組織的な闘争に発展したことを見たときからきかされ、大衆のなかには、闘いの芽があり、火種があることを教えられ、大きな力を身に感じたものである。

その後舞鶴では、飯野造船を不当解雇された七〇〇名の労働者の市民税を全免させる闘いを起こし、大きな成果をあげている。また丹後地区でも伊根、朝妻、加悦等でも税闘争が展開された。ところで、福知山の税闘争の影響で、天田郡中六人部村では、村長も参加して税闘争を展開した。上豊富員として税務署と交渉をやり大きな成果を上げていた。

(以下次号)

地域統一戦線

御室民主会議についての覚書

立原昌保

客観的条件の成熟、主体的条件の未熟が言われて久しい。民主的諸勢力の責任は重大である・・・と、一言思いを述べて埋もれつたがって、其の後組織的な闘争に

发展的条件の成熟、主体的条件の未熟が言われて久しい。民主的諸勢力の責任は重大である・・・と、一言思いを述べて埋もれつたがって、其の後組織的な闘争に

發展したことを見たときからきかされ、大衆のなかには、闘いの芽があり、火種があることを教えられ、大きな力を身に感じたものである。

发展的条件の成熟、主体的条件の未熟が言われて久しい。民主的諸勢力の責任は重大である・・・と、一言思いを述べて埋もれつたがって、其の後組織的な闘争に

◆前史

63年高雄ゴミ焼場（北部清掃工場）建設反対の地域闘争始まる。

400名参加の住民大会（於御室小学校講堂）を契機にたたかい

は、子供の交通安全、風致、生活環境を守るたたかいと位置づけられ、3年半続く。成果として、完

全燃焼施設の設置。工場内ブールの子供達への無料開放。ゴミ輸送車の台数および通路など、諸条件の合意。

67年、京福電鉄、御室小横の踏切り無人自動化工事を策動。直ちに反対闘争を組織。一点突破的集中闘争で無人化を撤回させ、京福電鉄と公正証書交換。調印団として小学校、中学校、両者PTA、子どもを守る会（民主会議を代表）。7、8年前、京福電鉄赤字経営とそれに基づく合理化計画を理由に警手引上げを自治連に提案。自治連は京福と一体になってその方向での処理を画策。民主会議、地域住民者会議を自治連を含めて組織。京福電鉄の責任者からの事情説明を受けて討議。原案は撤回（'93年2月現在も無人化されない。全国的にも例を見ない

◆'67年反対同盟解散と共に「御室民主会議」結成

初代議長 奥田雀草氏・故人
初代事務局長 西垣正氣氏・故人
(参加団体) 子どもを守る会・新婦人の会・民主商工会・京建労・

でも細胞が中心に多数の農民を含めて組織。京福電鉄の責任者からの事情説明を受けて討議。原案は撤回（'93年2月現在も無人化されない。全国的にも例を見ない

(2) 平和を守る闘い。'60年代末から'70年代へ

原水爆廃絶闘争を組織。独自の網の目行進。原水禁大会へ民主会議代表派遣のための募金活動。地域をはじめ、京都駅前でマイク片手に市民に運動を訴えて大きな成果。また、原水禁中心の地域平和問題学習会を組織し御室小学校会議室を会場として闘い取る。

③ 教育闘争

④ 校長交渉—新小・中学校長着任の度に校長交渉。民主会議の市民権を認めさせるとともに、学校の民主的運営を約束させる。

⑤ 分会との連帯—教育労働者の闘いには必ずその前日の分会会議に代表を派遣して激励。地域住民の署名入り激励旗を送る。

⑥ PTA民主化闘争—御室は、早くから民主的PTAの組織化があつた。日教組全国教研にPTA代表を正式会員として派遣するという経験あり。

PTA役員選挙には民主会議から「公認」候補を対立候補として立候補させ、立ち会い演説会などを組織し、PTAの民主化を訴える。役選はその後重要な闘いとなる。また、様々な形の寄付問題闘争、公費増額闘争に取組み、教

育委員会と団交を重ねる。その成果として、公費を増額させ一旦交付されたものの遡っての返金を勝ち取る。それらの闘いは、現在も継続に進む。原水禁大会へ民主会議代表派遣のための募金活動。地域をはじめ、京都駅前でマイク片手に市民に運動を訴えて大きな成果。また、原水禁中心の地域平和問題学習会を組織し御室小学校会議室を会場として闘い取る。

動かし、遂に保育所、児童館、老人ホーム、会議室の総合施設が、'76年開設される。

児童館および、老人ホーム会議室の運営委員会に民主会議から代

表、2名派遣。ちなみに児童館運営委員は、御室、宇多野各小学校表各2名、御室、宇多野自治連合会代表各2名、御室民主会議代表校長、御室、宇多野各小PTA代

表各2名、御室、宇多野自治連合会代表各2名、御室民主会議代表2名である。半官半民の児童館で正式に民主団体がその運営に深く関わっている極めて珍しい例ではなかろうか。

④ 社会的諸施設建設の闘い

② 御室消防支所建設

地域の歴史的文化施設や右京区特有の入り組んだ町並にも関わらず、消防支所が設けられていないことの危険性について、繰り返し交渉し右京消防署御室支所建設を勝ち取る。

⑤ 総合福祉施設建設

御室小学校分校が宇多野地区に移動（現在の宇多野小）されるに際し、その跡地を教育工場（机、椅子などの修理工場）に利用されることをいちばん察知し、直ちにその跡地を地域福祉総合センターにさせる闘いを組織。この運動（きく地域を包み込み市会を提案されるや直ちに「会を考える会」を考

る会」を組織する。全自治会役員・町内会長に「考える会」としての訴えと意見文書を送付する。また、「全

学区民に訴える!」ビラを作成、戸配布する。連合会内部の民主的役員とも連絡を取りつつ、内外から闘う。たちまち連合会は内部矛盾を生じ、「考える会」の組織化からわずか一ヶ月足らずで、連合会幹部役員は総辞職。再建委員会の下、新たな連合会が再建され新自治連会長の要請もあり民主会議から「議長」を派遣し現在に至る。

以上が思い出すまでの民主会議の来歴です。残念ながら組織としては現在開店休業中。個々の活動の力量に依存しながら、闘いの成果を食い繋いでいる、というのが実状です。しかし、目に見える大きい成果は、地域を代表する組織として市民権を得てることです。これは「小学校区の地域を基礎に、連帯意識で住民を結びつける。それは町内会やPTAを典型とする。学校教育や、趣味、スポーツ、行政伝達などを共同の事務とし、コミュニケーションの自発性を發揮させる（自治省）」という管理制度下の地域ならぬ「地方化」が深く広く進行している中で極めて重要であろう、と思うのです。

勤評闘争です。「勤評」これは小中学校教員の勤務状況は勿論、思想信条に至るまで調査して校長が教育委員会に報告、教員の管理統制を加える反動的な代物です。

「勤評」これは小中学校、八木中学等で生徒の同盟休校。十月十日糸井一委員長以下十七名の京教組の各郡の書記長が逮捕、第二執行部水口正委員長で発足。

一九五七年（昭和三二）文部省は教員に対する勤務評定を発表。四月二〇勤評反対府民大会、六月二〇日共闘会議、六月二五日から七月十日まで五割

休暇、七月八日、九日、十日と京都養正小学校、高野中学、八木中学等で生徒の同盟休校。

七月十日まで五割

休暇、七月八日、九日、十日と京都養正小学校、高野中学、八木中学等で生徒の同盟休校。十月十日糸井一委員長以下十七名の京教組の各郡の書記長が逮捕、第二執行部水口正委員長で発足。

「勤評」これは小中学校教員の勤務状況は勿論、思想信条に至るまで調査して校長が教育委員会に報告、教員の管理統制を加える反動的な代物です。

勤評闘争

湯浅貞夫



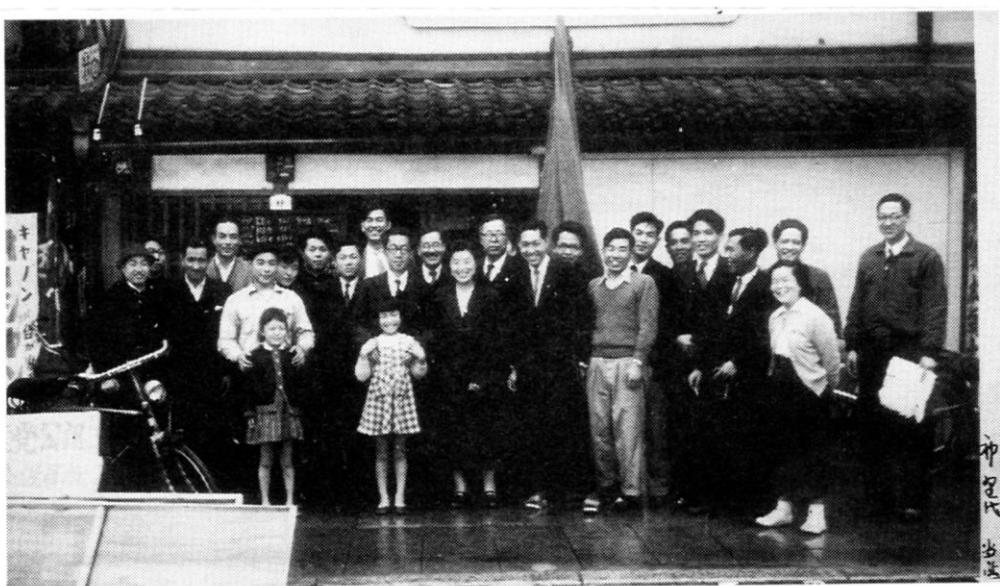
(1) 上の山で開かれた日教組大会

続、目で見る京都の民運運動史

①

戦後、多くの血を持ってかちとつた平和憲法と教育基本法にもとる勤評は全教職員の反対する所となりました。

市教組書記長でた神野七五三男氏が京都市会議員に立候補、左京区で当選
西村徳太郎市教組委員長、共産党オルグの生水武男氏、京大動物学の山内年彦氏の顔も見えます（左京区熊野で）



寺前いわお	女性
西村徳太郎	杉本源一
生水武男	山内年彦
女性	
神野七五三男	
子供	
加藤下駄屋主人	

(3)

秋放をかち取つて京都府
教育厅舎の玄関前に勢揃い
する十七人の京教組幹部

糸井委員長が中央に岡田婦
人部長、杉本源一書記長など
の顔が見
す。



阪田三雄（舞）
今西新（船）
谷善三
杉本源一
森本博之
佐藤良輔
中東
糸井一
木下義次
岡田文子
山本正行

久世診療所・山本	昭郎	南区
伊藤	晃	左京区
浅川	晋子	南区
重成憲太郎		城陽市
井垣	綾子	左京区
横村庄一郎		下京区
岩井	忠熊	右京区
神谷信之助		伏見区
山村	登	宇治市
木村	高野	高野
柴田	源治	源治
湯浅	人見	人見
古森	木村	木村
吉村	豊子	豊子
克之	貞夫	貞夫
滋賀県甲賀	照子	好人
正一	小林	山本
駿	純造	三千子
柏原市	綾	中京区
吉村	宇治市	古森
克之	左京区	敏夫
滋賀県甲賀	東山区	照子
市川	横浜市鶴見区	春日
加藤	向日市	市川
充	柏原市	正一

し振りになりましたが、92年4月
以降、お振込いただきました方々
のお名前を逐一掲載させていただ
きます。厚く御礼を申し上げま
す。

『燎原』事務局

あたたかき理念の学者の
はげましに夢うつゝの
生きざましわぶきて覚む

執着は此世になしと

病み床にいってはげまし多く
夢ふくらみてくる

正眼には仏師も見ざる

象ならむ病む身の夢に
御秘仏おがむ

たましいのすぐなる人の
書を読めば心吸はれて
洗われていく

(『燎原』をよみまして)

○会や本誌については、編集部担当の
奥田修二(宇治市広野町寺山一七一二
五七)、湯浅貞夫(京都府船井郡日吉町
保野田)の両名のいずれかにご連絡下
さい。

領収書にかえて

（編集部だより）

○故品角一郎氏の「農民運動散歩記」
(三)を掲載します。小見出しは編集
部でつけました。